

## 「コツコツ削減プロジェクト」結果報告（要約）

### ①最終集計結果のご報告

#### 【プロジェクトエントリー数】

家庭：256 世帯 事業所：26 社 学校：30 校

#### 【検針票提出数】

家庭：76 世帯 事業所：13 者 学校：29 校



#### 【CO2 削減量（※検針票提出者のみ）】

家庭・事業所はエントリー月～12月までの期間内で、前年同月を比較した削減量（電気のみ）  
学校は7月～11月の期間で、過去3年間の使用量平均と比較した削減量（電気と水道）

■家庭  $-5,516 \text{ kw} \times 0.552 \text{ kg-CO}_2/\text{kWh}$  (H23実績 実排出係数)  $= -3,045 \text{ kg-co}_2$

■事業所  $-41,655 \text{ kw} \times 0.552 \text{ kg-CO}_2/\text{kWh}$  (H23実績 実排出係数)  $= -22,994 \text{ kg-co}_2$

■学校 電気  $= -89,967 \text{ kg-co}_2$  水道  $= -2,932 \text{ kg-co}_2$  合計  $= -92,902 \text{ kg-co}_2$   
(CO2 排出係数： (電気) 0.552 (水道) 0.36 を利用)

■CO2 削減量 合計  $= -118,941 \text{ kg-co}_2 = 119 \text{ t-co}_2$

#### 【結果の考察】

目標とした210t（家庭：10t 事業所：150t 学校：50t）のCO2削減には大きく届かない結果となったが、節電すれば得をするという新しい仕組みによって新規参加者を獲得でき、100t以上のCO2削減に繋がったことは外部評価委員等に高く評価された。

最も大きな削減に繋がったのは学校であり、目標とした50tを大きく超える90tのCO2削減に成功した。その要因としては、参加校が児童会や生徒会などを中心に委員会等を設置して全校に呼びかけたこと、電気使用料の多い職員室等を中心に教職員の省エネを徹底したこと、高知市を中心にデマンド装置の設置が進み使用量の制限ができたこと、そうした数値を校内に掲示して現状を全校に見える化したこと、などであることが確認できた。また、取り組んだものの削減に繋がらなかった学校もあったが、耐震工事等の外部要因が主な原因であることがわかった。

家庭については、CO2削減量は少なかったものの、256世帯いうと多くの参加者を得ることができた。エントリー時のチェックや事後ヒアリング等で確認した結果、エアコンの使用方法を見直したことがもっとも削減につながり、削減を実感できる取り組みであったことがわかった。ただ、検針票の提出が少なかったことや、昨年度に比べて削減率が下がっていたことなどから、東日本大震災をきっかけに始めた省エネの揺り戻しが来ているようにも感じられた。

事業所も家庭同様 CO2 削減は目標に大きく届かない結果となったが、高校生を中心に商店等の小規模事業所をターゲットに呼びかけ多くの参加に繋がったことは、これまで接点の無かった新しい事業者層に省エネを広げていくきっかけとなった。課題としては、検針票の提出が無かった事業所の中で使用量が大きく増加してしまったことを後に知ったとが挙げられる。事業拡大など、努力では改善できない要因で増加することがあるという点から、省エネを取り組む部署単位で評価するなど、取り組み結果が反映されるような新しい評価基準の必要性が感じられた。また、事業拡大に対しても、増加を容認するではなく、省エネの導入を前提とした拡大や、カーボンオフセットのような相殺の提案も合わせて実施していくことが重要となると感じた。

## ②ツタヤポイントと商品券のご報告

本プロジェクトでは、株式会社ウイル様のご厚意により、削減に成功した家庭参加者（検針票提出者のみ）を対象に、Tポイントと商品券を進呈する形で進めてきました。

### ◆Tポイント付与の該当者

該当者：43名    ポイント付与数（合計）：5005ポイント

※エントリー月～12月までの期間、前年同月と比較して電気使用量削減に成功した参加者に対して「削減1kwにつき1ポイント」のTポイント付与

### ◆ツタヤ商品券500円該当者

該当者：56名

※エントリー月～12月までの期間、前年同月と比較して-7%以上の電気使用量削減1回以上成功した参加者に対して「ツタヤ商品券500円」を授与。

## ③省エネ行動検証のご報告

「省エネしている人を3割以上に増やすこと」を目標に、省エネをやっていなかった人がやるようになるにはどうすればいいか、という調査・ヒアリングも合わせて実施。そこから下記のようなポイントが見えてきた。

### ■全体に共通したポイント

- ・自身が平均より使用量が多いと自覚すれば取り組む（自身の立ち位置を知る）
- ・口で言うよりも、使用料等を見えるように貼り出す方が意識される（見える化する）
- ・何らかのご褒美があると継続のモチベーションになる。
- ・デマンド装置を無償でつけることができれば大きく広がる可能性。
- ・最初の成功体験が継続に繋がる。

### ■家庭のポイント

- ・第三者が評価、アドバイスしてくれる環境があれば変えられる（自分だけでは甘えがでる）
- ・一人ではなく複数人で楽しみながら取り組む環境があればやりやすい（一か月一万円生活のような、協力しつつも競い合うようなイメージ）

### ■事業所・学校（組織）のポイント

- ・省エネの目標と担当者を必ずセットで決めることで動きがでる
- ・上司や先生からの指示ではなく、考える場をつくって取り組みを決めることで

全体に当事者意識が芽生える

- ・こども（特に小学生）は素直に実践し、大人もこどもからお願いされると協力的になる。

上記のポイントを意識した提案をしていくことで、省エネが広まっていくと考えられる。ただ、環境省の「うちエコ診断」など、自身の立ち位置を知るツールや指標となるデータはあるものの、それを浸透させるところ（受診に時間がかかる、冊子を見ただけでは実感できない等）に高いハードルがあること。また、組織で目標と担当者を決めても、他の業務や学業等が優先され、途中で頓挫してしまう等の課題も挙げられる。そうした課題をどのように解決していくかは、提案者だけで考えるのではなく、実践者を巻き込み、一緒に考え作り上げていくことが大切になると感じている。そうした動きが結果に繋がり、成功を実感することができれば実践者に根付いていくと考えている。

#### ④取り組みの様子



伊野商業生による CM 撮影



伊野商業生による商店街での参加呼びかけ



節電をテーマにしたワークショップの開催



学校参加者を集めた意見交換会  
取り組み発表会



連携して開催したコツコツ削減コンテスト（学校）の表彰式集合写真